

みやこ

京の環境共生推進計画

環境レポート

—平成24年度版—

(案)

環境への負荷の少ない持続可能なまち  
「環境共生型都市・京都」

京都市

# はじめに

環境レポートは、「京の環境共生推進計画」の進ちよく状況等を、市民・事業者の皆様にお伝えし、くらしと環境とのつながりをもっと身近に感じ、行動に移していただくことを目指して毎年発刊しています。

## 『環境レポート』の特徴

- 環境指標の最新の値に基づき、環境の状況を分析しています！
- 市民の皆様が身近に取り組める事業やイベント、施策のトピックスを紹介しています！

## 京都市の環境の現況

- 😊 温室効果ガス総排出量（二酸化炭素排出量を含む）は前年度から増加したものの、平成 2 年（基準年度）の量から大きく減少（☞12 ページ）
- 😊 一般廃棄物市受入量は、市民の皆様のご協力により、年々減少しており、平成 12 年度（ピーク時）の 6 割まで減少（☞7,18 ページ）
- 😊 太陽光発電設備の発電出力は年々増加（☞12 ページ）
- 😊 生活環境は概ね良好な状態（☞14 ページ）
- 😞 依然として、悪臭や騒音の苦情が多い（☞14 ページ）
- 😊 市街地の緑は少しずつではありますが、着実に増加（☞15 ページ）
- 😊 森林保育・造林面積は平成 17 年度以降、減少していましたが、増加傾向（☞16 ページ）
- 😊 使用済てんぷら油の回収拠点数・回収量は年々増加（☞17 ページ）
- 😊 みやこ 京 エコロジーセンターの利用者数は、開館以来最高を記録（☞19 ページ）

😊：良い状況，😊：どちらともいえない，😞：やや悪い状況

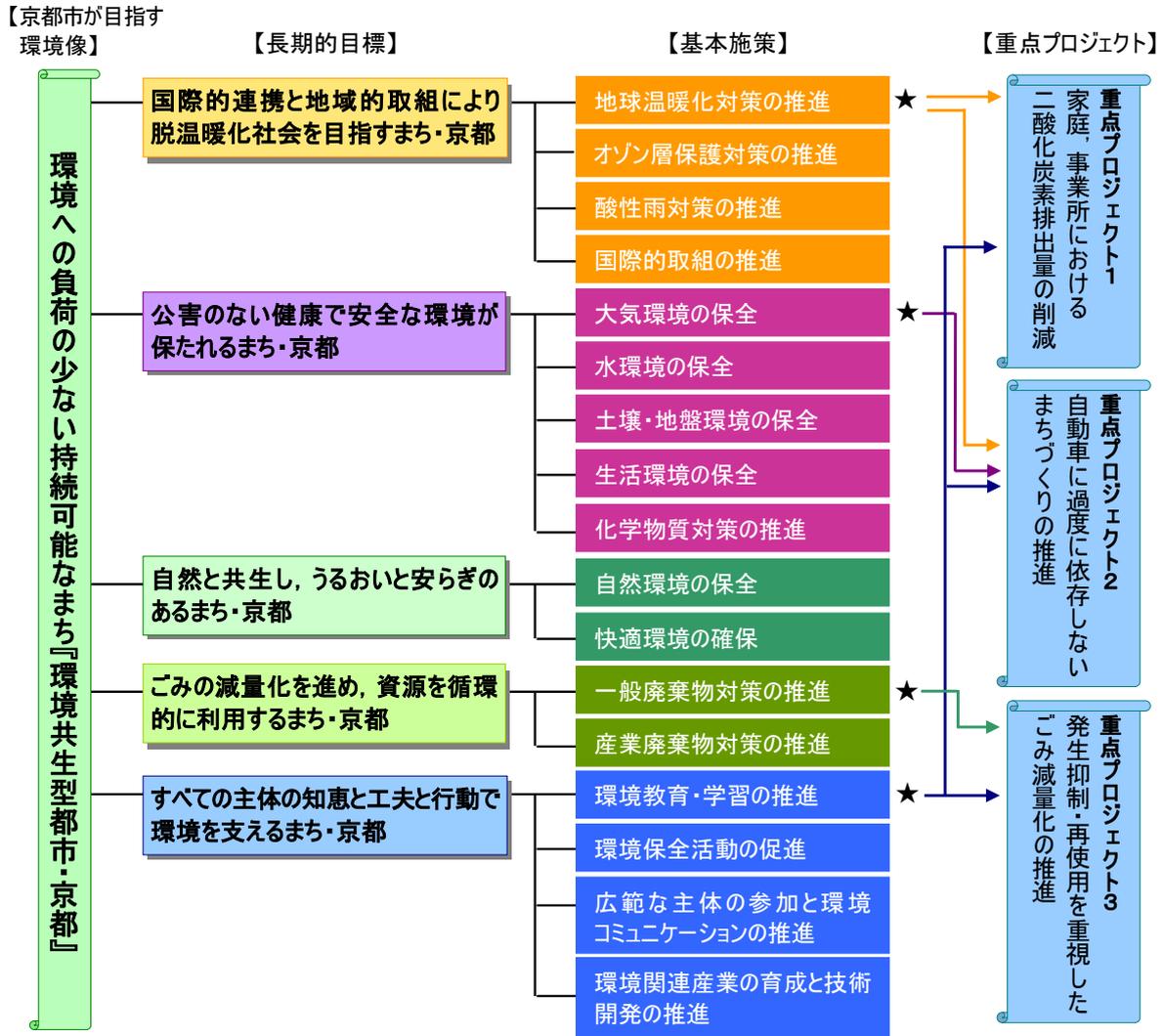
## 目次

京の環境共生推進計画とは	2
京都市の環境の現況	3
重点プロジェクトの進ちよく状況	5
豊かな自然にふれあい、次世代に引き継ごう	8
各区の主な取組	9
長期的目標の進ちよく状況	11
ご存知ですか 市の取組	21

## 京の環境共生推進計画 とは

- ◆ 「京都市環境基本条例」に基づき策定した、環境の保全に関する個別分野の施策の方向性を示す環境行政のマスタープランです。
- ◆ 計画の期間は平成 18 年度から 27 年度までの 10 年間

## 計画の体系



- ◆ 重点プロジェクトは、京都市をとりまく環境の現況や市民の関心を踏まえ、優先的に取り組む分野を選定したものです。

## 計画の推進

計画（Plan）の着実な推進を図るために、計画の目標実現に向けた施策・事業の状況等（Do）を定期的に評価し（Check）、適切に見直し推進する（Action）、とした PDCA サイクルの手続きに沿って実施しています。

## 進捗度分類について

環境指標のうち目標値をもつ数値目標とプロジェクト目標について、下表のように進捗度を評価しました。

4段階評価	◎（目標よりも進んでいる）	○（ほぼ目標どおり）	△（目標よりも遅れている）	×（目標よりも大幅に遅れている）
年々増加・減少する項目	翌年度の年目標値以上	前年度の年目標値以上 翌年度の年目標値未満	3年度前の年目標値以上 前年度の年目標値未満	3年度前の年目標値未満
京都市環境保全基準	80%以上	60%以上 80%未満	40%以上 60%未満	40%未満

# 環境への負荷の少ない持続可能なまち「環境共生型都市・京都」を目指して

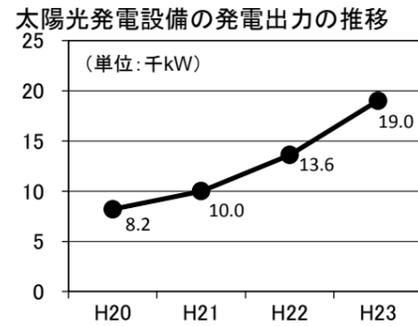
～ 京都市の環境の現況 ～

- 😊 : 良い状況
- 😊 : 横ばい状況
- 😞 : やや悪い状況

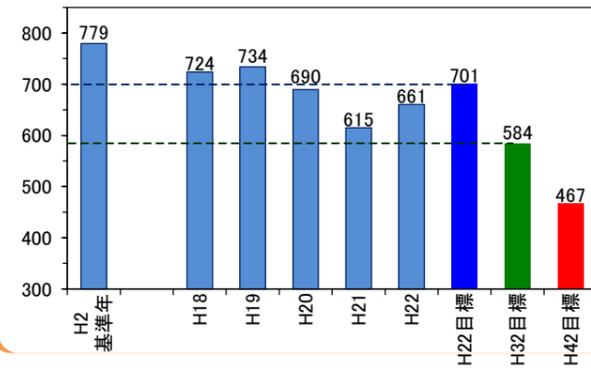
京都のまちがもつ「市民力」, 「地域力」を結集し, 京都議定書誕生の地ならではの地球温暖化対策をはじめとして, ごみ減量・再利用やリサイクルに取り組むとともに, 環境にやさしいライフスタイルへの転換に向けた実践行動を市民ぐるみで推進しています。

## 国際的連携と地域的取組により脱温暖化社会を目指すまち

- 😊 平成 22 年度温室効果ガス総排出量は 661 万トン
  - ・ 基準年度の 779 万トンから 118 万トン, 15.1% 減少
  - ・ 改正前の地球温暖化対策条例で掲げる 10% 削減の目標を達成
  - ・ しかし, 家庭・事業所における二酸化炭素排出量は, 基準年度から増加しており, 引き続き, 排出量削減対策の強化が必要
- 😊 平成 23 年度太陽光発電設備の発電出力は 1 万 9 千 kW
  - ・ 約 4,230 世帯の年間電気消費量に相当



温室効果ガス総排出量の推移 (単位: 万トン-CO<sub>2</sub>)



大規模太陽光(メガソーラー)発電所  
(発電量は, 一般家庭約 1,000 世帯分の消費電力量に相当する約 420 万 kWh/年)

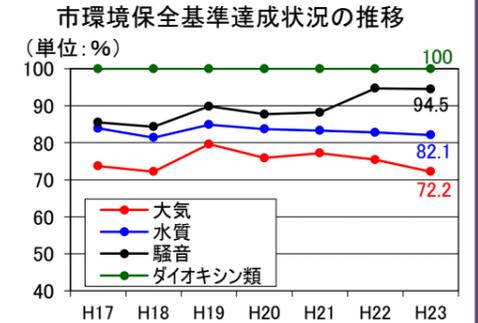


## 「環境共生型都市・京都」のイメージ

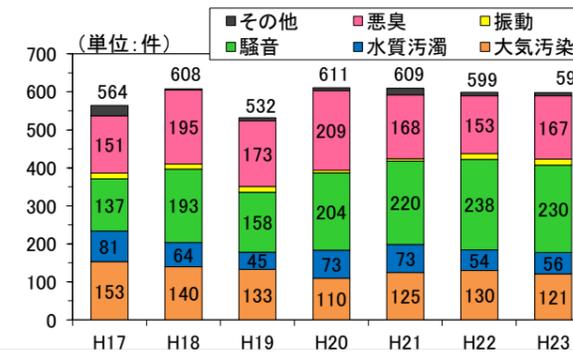
- 😊 市街地の緑は少しずつではあるが着実に増加
  - ・ 平成 23 年度人口 1 人当たり公園等面積は 4.73m<sup>2</sup>
- 😊 森林保育・造林面積は平成 17 年度以降, 減少していたが, 徐々に増加
  - ・ 平成 22 年度森林保育・造林面積は 925ha

## 公害のない健康で安全な環境が保たれるまち

- 😊 生活環境については, 自動車等の騒音は良化しており, 長期的には各分野とも概ね良好傾向
- 😞 公害苦情件数は, 近年は年間 600 件前後で推移, 騒音及び悪臭の苦情件数が多い
  - ・ 生活様式の多様化により, 近隣のトラブルに起因する苦情が増加傾向にあり, 近隣住民の方への配慮が必要
  - ・ 建設・解体工事に伴う騒音苦情や製造業からの悪臭苦情が多い



公害苦情件数の推移 (単位: 件)



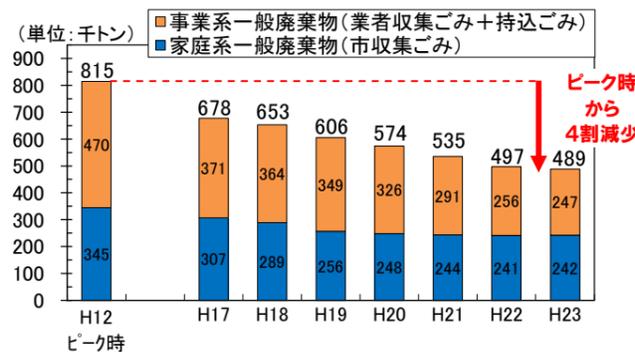
### 【市環境保全基準とは】

市民の健康を保護し, 快適な生活環境及び良好な自然環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として, 本市が独自に定めたもの。

## ごみの減量化を進め, 資源を循環的に利用するまち

- 😊 一般廃棄物市受入量は年々減少
  - ・ 平成 23 年度は 48.9 万トン (1 人 1 日当たり 906g)
  - ・ ただし, 家庭ごみは近年横ばいであったが, 平成 22 年度比 0.3% の増加 (平成 9 年のピーク時から 14 年ぶりに増加)
- 😊 使用済てんぷら油の回収拠点数・回収量は年々増加
  - ・ 平成 23 年度は約 19 万 6 千リットル集まりました。

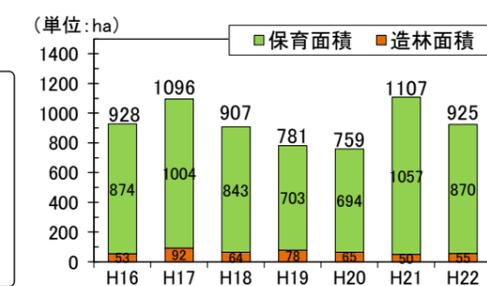
一般廃棄物市受入量の推移



使用済てんぷら油の回収

## 自然と共生し, うるおいと安らぎのあるまち

森林保育・造林面積の推移 (単位: ha)

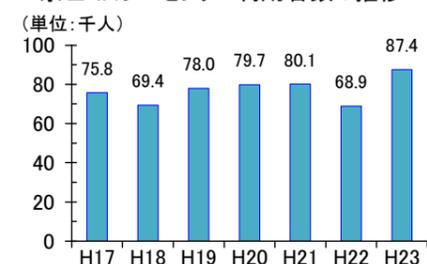


緑のカーテン  
(平成 23 年度は全校の 8 割を超える 232 校で実施)

## すべての主体の知恵と工夫と行動で環境を支えるまち

- 😊 平成 23 年度京エコロジーセンター利用者数は開館以来最高を記録
  - ・ ただし, 環境に関する講演会, 市民環境講座等の環境保全活動プログラム参加者数は平成 19 年度以降減少 (平成 23 年度は 187,125 人)
- 😊 平成 23 年度エコイベント登録数は平成 22 年度に比べ 5.6 倍に増加
  - ・ 平成 22 年度 15 件 → 平成 23 年度は 84 件

京エコロジーセンター利用者数の推移 (単位: 千人)



子どもエコライフチャレンジ  
子どもたちへの環境教育の推進, 市立全小学校 (170 校) で実施

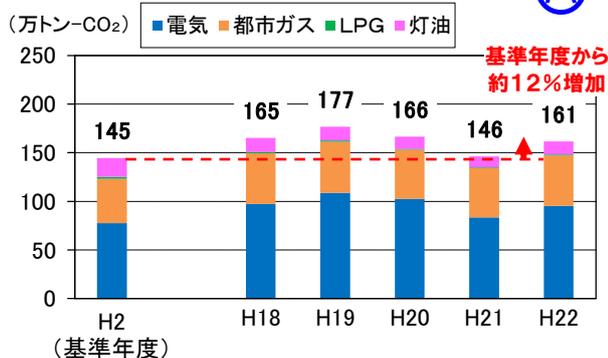
# 重点プロジェクト1 家庭・事業所における二酸化炭素排出量の削減

家庭と事業所から排出される二酸化炭素量は基準年度から増加しています。引き続き、排出量削減対策の強化が必要です。

## 民生・家庭部門の二酸化炭素排出量

平成 22 年度は 161.5 万トンであり、基準年度から 11.6%増加

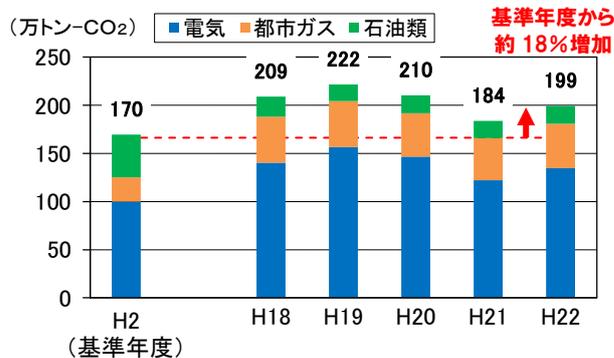
主な増加理由：世帯数の増加



## 民生・業務部門の二酸化炭素排出量

平成 22 年度は 199.7 万トンであり、基準年度から 17.6%増加

主な増加理由：課税床面積等の増加



## Q. 二酸化炭素が増加し、地球温暖化が進むと、私たちの生活等はどうなるんだろう？

**A. 気象・人体** 猛暑日や熱帯夜が増え、熱ストレスによる死亡リスクや熱中症患者が増加し、病人やお年寄り、子どもの健康に悪影響をもたらすおそれがある。

**動植物への影響** 急激な気候変動に適応できない動植物は減少し、最悪の場合は種の絶滅をもたらす恐れが高まる。

など様々な影響をもたらします。

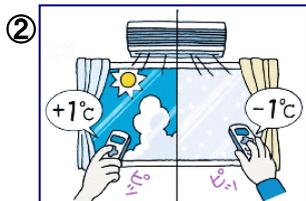
## 省エネ・省資源のくらしを心掛けよう！

温室効果ガスは、私たちが使う電気を発電する、お湯を沸かす、自動車を利用する、生活から出たごみを焼却するなど、生活のあらゆる場面で発生しています。

地球温暖化を防止するためには、私たち一人ひとりが省エネ・省資源の生活を実践し、温室効果ガスを減らすことが大切です。

例えば、

- ① 使っていない部屋の電気は消しましょう。
- ② 室温を調整し、冷房時は 28℃、暖房時は 20℃に設定し、冷暖房の運転時間を 1 日 1 時間ずつ短縮しましょう。
- ③ 買い物に行くときは、必ずマイバッグを持参し、レジ袋や過剰包装を断りましょう。
- ④ 自動車の利用を減らし、公共交通機関や自転車を利用しましょう。
- ⑤ 家電製品を買い替える際には、省エネ性能の高い製品を選びましょう。



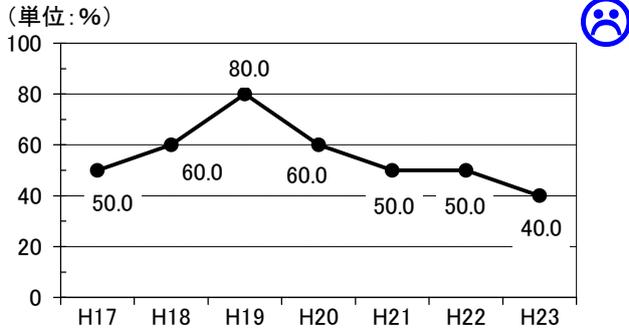
検針票などで電気やガスの使用量を確認し、環境家計簿をつけて、どれくらい省エネできたかチェックしてみよう！  
インターネット版環境家計簿は ホームページ (<http://www.doyoukyoto.com>) をご覧ください。

# 重点プロジェクト2 自動車に過度に依存しないまちづくりの推進

車を利用しすぎると空気が汚れたり、地球温暖化が進行してしまいます。

## 大気中の二酸化窒素の市環境保全基準達成率

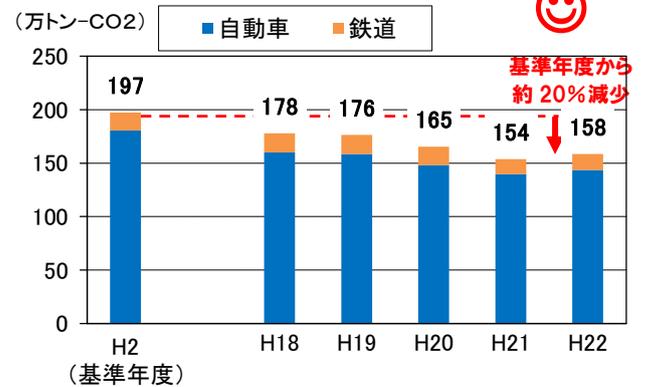
自動車排気ガスが主な原因の一つである二酸化窒素の市環境保全基準達成率は低下傾向にあります。



※市環境保全基準（当分の間）は1時間値の1日平均値が0.04ppm以下

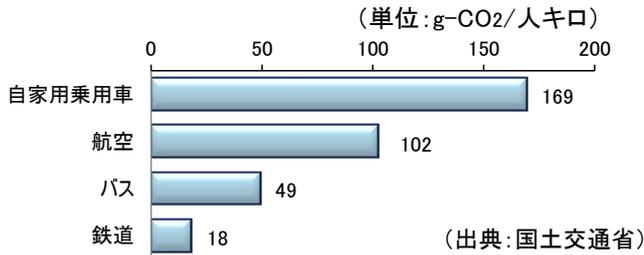
## 運輸部門の二酸化炭素排出量

約9割が自動車から排出され、基準年度から19.7%減少しています。



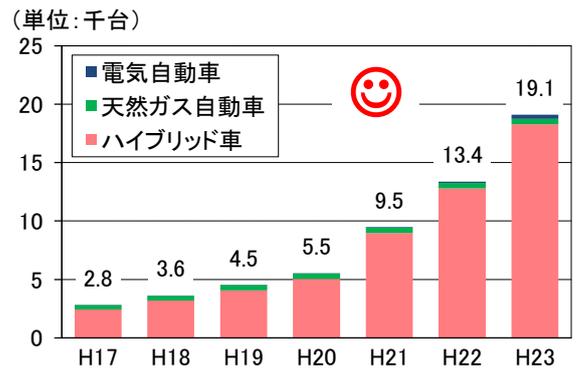
## 車を使う代わりに公共交通を利用すれば、もっと快適な環境に変えることができます！

1人を1キロ輸送するときに排出される二酸化炭素量を比べると、自家用乗用車に対し、鉄道は1/9、バスは1/3以下しか排出しません。



(出典:国土交通省)

低公害車の登録台数は年々増加しています。



## 「パーク アンド ライド」 ～マイカーから公共交通に乗り換えて市内を楽しもう～

マイカーから公共交通に乗り換えて目的地まで移動する取組で、市内への自動車流入抑制と環境負荷の軽減に効果があります。

近隣自治体や市周辺部の駐車場事業者等と連携のもと、市内外38駐車場(5,142台)で通年実施しています。

渋滞や駐車場探しに煩わされることなく、公共交通を使って、「ほんまもの」の京都の魅力を満喫しよう。



平成24年度11月に阪神高速道路鴨川西出入口に開設したパークアンドライド駐車場(タイムズ鴨川西ランプ)

### 移動手段と滞在箇所数



出典: H18 京都を中心とした歴史都市の総合的の魅力向上調査に係る観光客の動向調査

クルマでは、「移動」ばかりに時間がとられて、結局訪れる箇所が減ってしまいます。

実際、電車等を使う人は、クルマを使う人よりも、約1箇所近くも多く観光地を巡ることが知られています。

詳細はホームページなどをご覧ください。

[歩くまち京都](#)

[検索](#)

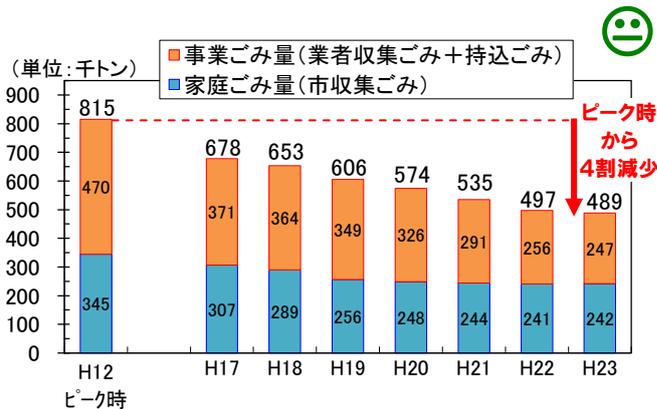
# 重点プロジェクト3 発生抑制・再使用を重視したごみ減量化の推進

ごみは減ってきています。しかし次の世代まで美しい京都を引き継いでいくには、さらなるごみの減量・リサイクルが必要です。

## 一般廃棄物市受入量

市民の皆様の家庭ごみ有料指定袋制へのご協力などにより、平成 18 年以降、一般廃棄物市受入量は年々減少しており、平成 12 年度（ピーク時）の 6 割まで減少しています。

京都で暮らす、働く、学ぶ、そして、京都に集う一人ひとりの皆さんの力を結集し、ピーク時からのごみ半減を目指し、『低炭素社会』、『循環型社会』を実現しましょう。



## Q. ごみを減らすと、どんな良いことがあるの？

### A. 1. 温室効果ガスの削減にもつながります。

将来世代に青く美しい地球を引き継ごう！

### 2. クリーンセンターを現在の 4 工場から 3 工場体制に移行しました。

建替え経費 400 億円、運営経費 8 億円を節約

燃やすごみの処理に約 126 億円(平成 22 年度、45 リットルごみ袋 1 袋当たり 297 円)かかっています。

### 3. 最終処分場「エコランド音羽の杜」をより長く使用できます。

今ある最終処分場は完成までに 22 年の歳月と 520 億円以上もの経費がかかっています。

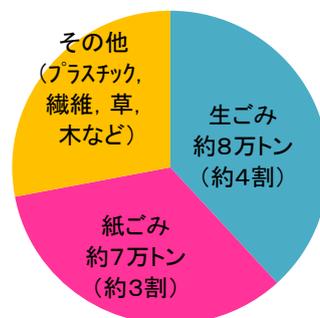
美しい環境を引き継いで、孫の世代まで貴重な最終処分場を使いましょう！



## ごみ量のピーク時以降、家庭ごみが初めて増加 生ごみの減量、紙ごみの分別・リサイクルにご協力を！

ピーク時以降順調に減り続けていた家庭ごみ量が、平成 23 年度に 24.2 万トンとなり、増加（前年度比 1 千トン）に転じました。

家庭ごみを減らすには、燃やすごみの約 4 割を占める生ごみの減量と、約 3 割を占める紙ごみの分別・リサイクルを進めることが重要です。



平成 23 年度 家庭ごみ (燃やすごみ) の内訳 (約 21 万トン)

## 生ごみ編 3つの「キリ」で生ごみを減らそう！

- 1 買いすぎない、買ったものは使いキリ**  
食材を必要な分だけ買い、正しい保存でムダなく活用
- 2 もったいない！ とにかく食べキリ**  
残り物の上手な保存やアレンジレシピで残さず食べる
- 3 スリムに水キリ**  
生ごみの約 8 割を占める水分をできるだけ切る



## 生ごみのもったいない現実

食べ物のムダは 1 世帯 (4 人家族) 当たり年間 6 万 5 千円！  
(購入費 6 万円 + 処理費 5 千円)

- ❑ 生ごみの中には、食べ残しや買ったままの手つかず食品が多く含まれています。
- ❑ 「賞味期限切れ」 = 「捨てなきゃ」ではありません。



約 60 世帯、3 日分の燃やすごみに入っていた手つかず食品の例

詳しくは、ホームページをご覧ください  
京都生ごみスッキリ情報館

京都市 生ごみスッキリ 検索

## 豊かな自然にふれあい、次世代に引き継ごう

京都市は、周囲を里山に囲まれ、中心地に川が流れる、自然に恵まれたまちです。市街地にもお寺・神社、公園などに多くの緑が残されています。身近な自然にふれあい、自然の恵みを守り、豊かな自然を次世代に引き継いでいきましょう。

人間を含むすべての生き物は、他の多くの生き物と大気・水・土などで構成される環の中で相互に関わりあって生きています。こうした生き物たちの豊かな個性とつながりのことを**生物多様性**といいます。

### 生物多様性を守るために私たちができること

- 👉 自然にふれ、身近な生き物を観察する
- 👉 ペットや外来生物を捨てない、逃がさない、最後まで大切に飼う
- 👉 家族と自然の恵みや大切さについて話し合う

環境省「いのちがつながっている」から引用

## 自然にふれあおう！ 梅小路公園内「いのちの森」の紹介

**いのちの森**は都市部における自然再生の成功事例として、様々な生き物が生息し、観察しながら環境学習できます。

- ◆1996(平成 8)年に開園された面積約 0.6ha の緑地
- ◆朱雀の庭と一体となった、自然の生態系を復元したビオトープ



樹冠回廊を豊かに覆う樹木



市民の環境学習の場として活用



上空から撮影

場所: 京都駅中央口より塩小路通を西へ徒歩約 15 分  
詳しくはホームページで **梅小路公園** **検索**

## みんなで探そう 京都のいきもの

公園や道路沿いの樹木、里山など身近な自然の中で、野鳥や昆虫などの生き物を探し、その情報を報告いただきました。平成 24 年度は 300 種の生き物の発見報告が寄せられ、一部はホームページ（一例は右下）で公開しています。

### 平成 24 年度実績

- 応募期間** 平成 24 年 7 月 18 日～11 月 30 日
- 対象者** 市内在住者、通勤・通学者
- 報告内容** 見つけた生き物、いつ、どこで(町名など)、おおよその数 など
- 報告方法** 「みやこのいきもの発見ガイド」(右上)に添付の専用はがき、電話、Fax、メール



報告のあった生き物の紹介  
名前: クロセセリ  
発見場所: 大原三千院周辺



### 発見報告いただいた情報はホームページで公開しています

- 🦋 **ウスバキトンボ**  
台風で流されてきたのか数頭道路の上で飛んでいました。  
場所: 西京区川島有栖川町(道路)
- 🌸 **アレチヌスビトハギ**  
用水路わきで花を咲かせていました。  
場所: 西京区川島尻堀町(水田)
- 🐝 **ナミアゲハ**  
ヒガンバナに飛んできていました。  
場所: 西京区川島尻堀町(水田)
- 🌸 **ヒガンバナ**  
秋らしい風情ですね。  
場所: 西京区川島尻堀町(水田)



京のいきもの発見

検索

<http://www.city.kyoto.jp/kankyoenvm/shizen/ikimono.htm>

## 各区の主な取組

きょう

京からみんなで環境にええことしましょ！

### 北区 北区民環境セミナー

区民の皆様が環境問題を考えるきっかけづくりとして、10月に自然観察会を行いました。貴重な森の残る船岡山で、多種類のどんぐりの観察、どんぐりクッキーの試食も行いました。

自然環境の変化について説明を受け、自然環境を守りつづける大切さについて考えました。



### 上京区 「みんなで花を咲かそう」ボランティア活動

庁舎入口を美しく飾り、通行人や来庁者の目を楽しませる花を、区民ボランティアの皆様が大切に育てています。毎日の水やり等は交替で、春と秋の植替えは全員で和気あいあいとお世話をします。この活動を通じて、まちの美化や環境問題への関心を高めていきます。



### 左京区 松ヶ崎エコ学区推進協議会の取組

7月に区役所で実施した「左京旬の朝市」に松ヶ崎エコ学区推進協議会も参加し、地産地消の取組や里山の整備による木質燃料の確保等の取組を紹介したパネル展示等を行いました。



### 中京区 「京都みつばちガーデン推進プロジェクト」進行中！

区役所の屋上庭園でニホンミツバチを飼育し、ミツバチとの「共生」という視点から緑化を呼びかけ、緑豊かなまちを目指しています。9月には初めて蜂蜜を採取し、屋上庭園の見学ツアーやお茶会も実施しました。



### 緑のカーテン

環境教育の取組として、子どもたちが植物に親しみながら、緑のもたらす涼しさなどを体感できる「緑のカーテン」の整備を進めています。



### 東山区 区民ふれあいひろばでのエコ活動

模擬店でリユース食器を活用し、マイ箸・マイバッグの使用を働きかけました。また、フリーマーケットの実施、使用済てんぷら油の回収、分別ごみ箱の設置等、ごみ減量・リサイクルの取組を広くPRしました。



## 山科区 エコアクションNo.1宣言2012

環境保全を啓発する映画の上映や地産地消を推進する山科の旬野菜を販売しました。不要になったおもちゃを交換する「かえっこバザール」等、子供たちも楽しみながらエコを学びました。



## 下京区 区民ふれ愛ひろばでのエコ活動

ふれ愛ひろばの開催により排出される二酸化炭素排出量 0.2 トン（1 世帯あたりの月間排出量に相当）を、「DO YOU KYOTO? クレジット制度」を活用し、オフセット(他の場所で減らした量で埋め合わせ、排出量なしとみなす)するとともに、リユース食器に加え、イートレイ(食べられる食器)を使用し、ごみ減量にも取り組みました。



## 南区 南区「打ち水」作戦

ヒートアイランド対策をはじめ環境にやさしい取組の推進を呼びかけるため、8月1日の「水の日」に合わせて、区内の行政機関で構成する「南区行政推進会議」の主催で「打ち水」を行いました。実施前後で気温が2度下がり、打ち水の効果を実感しました。



## 右京区 区民オリエンテーリング・クリーン大作戦

笑顔あふれる楽しくて美しいまちづくりを目指し、ごみを拾いながら紅葉で色づいた嵯峨野路を歩くオリエンテーリングを開催しました。

会場では、古着等のフリーマーケットや、使用済てんぷら油の回収等を行いました。



## 西京区 西京・みどりのカーテン100枚プロジェクト

50世帯の区民モニターの皆様が、講習会でゴーヤの育て方を学び、家庭でみどりのカーテンの育成に取り組みました。続々と寄せられた育成状況の報告は、区役所のホームページに掲載しました。



## 伏見区 大岩山一斉清掃ウォーク

かつて不法投棄でごみの山と化していた大岩山を、いつまでもきれいな里山として維持するため、地域住民、学生、各種団体の皆様のご協力により5月と12月に一斉清掃を実施しました。



# 国際的連携と地域的取組により脱温暖化社会を目指すまち・京都

## Plan (計画・目標)

京都議定書誕生の地である京都において、私たちの日常生活や通常の事業活動から生じる環境への負荷が、地球規模の環境問題に多大な影響を与えていることを理解し、環境負荷を低減するための取組を推進します。エネルギーの省力化、新エネルギーの導入などを促進し、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出を抑制することにより、脱温暖化型の地域社会を目指します。

国際機関との連携により、地球温暖化対策をはじめとした環境保全全般に係る取組を推進します。

### 基本施策

1-1 地球温暖化対策の推進

1-2 オゾン層保護対策の推進

1-3 酸性雨対策の推進

1-4 国際的取組の推進

### 【地球温暖化対策の推進の目標値】

京都市地球温暖化対策条例（平成 22 年 10 月全部改正）に掲げる「平成 42 年度までに温室効果ガスの総排出量を平成 2 年度比 40%削減、平成 32 年度までに 25%削減する」ことを目標値とします。

平成 2(1990)年度 温室効果ガス総排出量:779 万トン

平成 32(2020)年度 温室効果ガス総排出量:584 万トン  
(基準年度比 25%削減)

## Do (実施)

### 低炭素社会実現を目指して 地球温暖化対策条例に基づく施策・取組

#### 市の施策

カーシェアリングの普及促進、地域産木材の利用促進、環境産業の育成・振興 等

#### 市民・事業者の取組

エコ通勤の促進  
エコカーの選択・カーシェアリングの利用  
食の地産地消 等

#### 特定事業者の取組

事業者排出量削減計画書制度【義務】 拡充  
環境マネジメントシステムの導入【義務】  
新車購入時におけるエコカーの選択【義務】

#### 自動車販売店の取組

自動車環境性能情報の説明【義務】  
エコカーの販売実績の報告・公表【義務】

#### 特定建築物<sup>※1</sup>などの建築主による取組

地域産木材の利用<sup>※2</sup>【義務】  
再生可能エネルギー利用設備の設置<sup>※2</sup>【義務】  
建築環境総合性能評価システム（CASBEE 京都）に基づく評価及び評価結果の広告などへの表示【義務】  
建築物及び敷地の緑化<sup>※2</sup>【義務】

※1 延べ床面積 2000m<sup>2</sup>以上の大規模建築物（新築・増築）

※2 平成 24 年 4 月 1 日から実施

### CO<sub>2</sub>クレジットの京都版「地産地消」モデルを構築する DO YOU KYOTO?クレジット制度の運用

市民や中小事業者による主体的な温室効果ガスの排出削減を促進するため、省エネ活動等により実現した CO<sub>2</sub>削減量をクレジットとして認証し、イベントや主催者がこれをカーボン・オフセット（排出された温室効果ガスを他の場所で削減した量で埋め合わせ、排出量なしとみなす）に活用する制度を運用しています。

（活用例：京都サンガ F.C.  
ホームゲーム、写真）



### 省エネやライフスタイルの転換につながる取組を推進する 低炭素のモデル地区「エコ学区」事業

家庭からの二酸化炭素排出量の削減等を図るため、各区役所・支所管内から 1 学区ずつエコ学区を選定し、省エネに関する学習会や無料衣服交換会(写真)の開催等ライフスタイルの転換につながる事業に積極的に取り組んでいます。



# Check (点検) 主な環境指標の推移

環境指標	単位	基準値 (基準年度)	実績値 (実績年度)	目標値 (目標年度)	進捗度及び 対基準値比	
温室効果ガス総排出量*	万トン	779.2 (H2)	660.7 (H22)	701 (H22)	◎	15.1%減少
二酸化炭素排出量	万トン	732.1 (H2)	635.7 (H22)	—	—	13.2%減少
産業部門	万トン	194.6 (H2)	94.7 (H22)	—	—	51.3%減少
運輸部門	万トン	197.3 (H2)	158.4 (H22)	—	—	19.7%減少
民生・家庭部門	万トン	144.7 (H2)	161.5 (H22)	—	—	11.6%増加
民生・業務部門	万トン	169.7 (H2)	199.7 (H22)	—	—	17.6%増加
廃棄物部門	万トン	25.8 (H2)	21.5 (H22)	—	—	16.6%減少
公共交通機関利用者数	百万人	515.6 (H16)	522.8 (H22)	—	—	1.4%増加
太陽光発電設備の発電出力	千kW	8.2 (H20)	19.0 (H23)	160 (H32)	△	131.7%増加
フロン回収量 (CFC 対象)	kg	4,796 (H16)	176 (H23)	—	—	—
海外からの環境施設視察者数	人	231 (H16)	701 (H23)	—	—	303.5%増加

※ 温室効果ガス排出量は、それを削減する効果のある量（森林による二酸化炭素吸収量、ごみ発電と太陽光発電による削減効果量）10.9万トンを差し引いて算定しています。

詳しくは、「京都市の地球温暖化対策」(平成25年2月発行)または、ホームページをご覧ください。

京都市の地球温暖化対策 **検索**

## Action (改善・見直し・更なる前進)

### 再生可能エネルギーの導入拡大 大規模太陽光(メガソーラー)発電所の誘致

原子力発電に依存しない安心安全なエネルギー社会の早期実現に向け、再生可能エネルギーの飛躍的な利用拡大を図るため、水垂埋立処分地への大規模太陽光発電所(写真)を誘致しました。

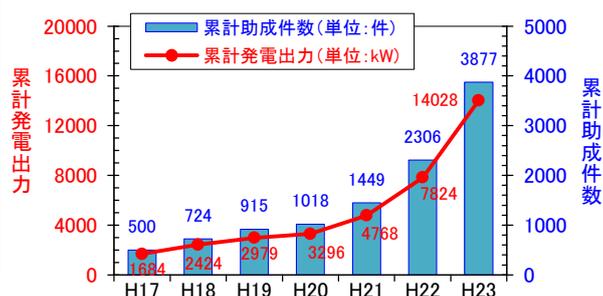


発電量は、一般家庭約1,000世帯分の年間消費電力量に相当する約420万kWh/年

### 市民の太陽エネルギーの利用拡大

住宅用の太陽光発電システム設置費用の一部を助成しています。

平成23年度までの累計発電出力は、約1万4千kW(約3,115世帯の年間電気消費量に相当)で、前年度から約1.8倍増加



### 市民の皆さんの出資が地域のエネルギーを創る 「市民協働発電制度」を創設

再生可能エネルギーの普及を促進するため、広く市民誰もが参加でき、地域経済の活性化につながる、京都ならではの制度を創設しました。

運営主体が市民等から出資を募集し、3箇所の市有施設に太陽光発電設備を設置、平成25年3月に稼働しました。



### コラム

#### ノンフロン製品を選びましょう

オゾン層を破壊する特定フロン(CFC, HCFC など)は、国際的な取り決めにより、現在は使用・製造などが禁止されています。

しかし、特定フロンに代わり普及した代替フロン(HFC など)は、オゾン層への影響は小さいものの地球温暖化への影響は二酸化炭素に比べて数百倍から1万倍以上大きくなります。

フロンに代わり、オゾン層を破壊せず、地球温暖化にも影響の小さい“ノンフロン”の使用や製品が広がっています。

## Plan (計画・目標)

大気、水、土壌・地盤などを良好な状態に保持・保全するとともに、自動車交通公害や生活排水による水質汚濁などの都市生活型公害、更には化学物質等による新たな環境問題への適切な対応など、環境汚染の未然防止と拡大抑制に努め、市民が安心して暮らすことのできる公害のない健康で安全な環境を確保します。

### 基本施策

- 2-1 大気環境の保全
- 2-2 水環境の保全
- 2-3 土壌・地盤環境の保全
- 2-4 生活環境の保全
- 2-5 化学物質対策の推進

### 京都市環境保全基準とは

市民の健康で快適な生活・自然環境を確保するために、大気汚染、水質汚濁、地下水汚染、騒音、土壌汚染、悪臭、地盤沈下、緑及びダイオキシン類の9項目について設定しています。このうち、悪臭、地盤沈下及び緑の3項目は国の環境基準で定められていない本市特有のものであり、また、大気汚染の二酸化窒素等は国よりも厳しい基準を設けています。

## Do (実施)

### 一般環境大気測定

二酸化硫黄、二酸化窒素等について、市内16局\*で年間を通じて自動測定を実施



市役所局(市役所屋上)  
※平成24年度からは14局

### 河川水質測定

河川水質について、市内各地で測定を実施



分析する河川水の採取状況

### 騒音測定

自動車騒音、新幹線騒音、一般環境騒音等について、市内各地で測定を実施



騒音の測定状況

### クルマのかしい利用を進める

#### 自動車環境対策計画(2011-2020)を策定し、取組を推進中

自動車排ガスが主な原因の一つである二酸化窒素濃度を改善し、市環境保全基準達成に向けて、3つの視点に基づく取組を進めています。

**視点1** 人と公共交通優先の歩いて楽しいまち

**視点2** 自動車とかしくつきあうまち

**視点3** エコカーへの転換が進むまち

### こんなことでお困りの時は環境共生センターにご相談ください

- ◆ 工場のボイラーからの煙
- ◆ 建設・解体工事による騒音
- ◆ 製造工場からの悪臭
- ◆ 川や水路に油が浮いている
- ◆ 浄化槽を設置したいが手続きの方法がわからない など



悪臭の測定状況

北・上京・左京・中京・右京区にお住まいの方は  
**北部環境共生センター** (電話 075-451-0211)

東山・山科・下京・南・西京・伏見区にお住まいの方は  
**南部環境共生センター** (電話 075-671-0511)

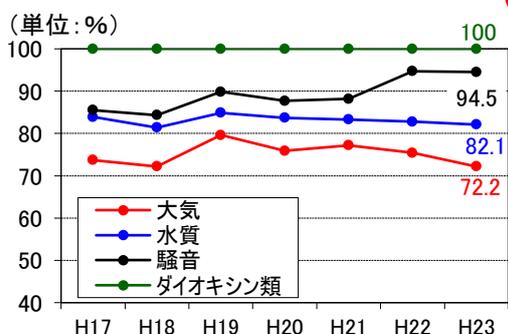
# Check (点検) 主な環境指標の推移

環境指標		単位	基準値 (H16)	実績値 (H23)	目標値 (H27)	進ちよく度及び対基準値比		
大気汚染に係る市保全基準達成率	二酸化硫黄	一般局※ <sup>1</sup>	%	100.0	100.0	100.0	◎	—
		自排局※ <sup>1</sup>	%	100.0	100.0	100.0	◎	—
	二酸化窒素 (当分の間※ <sup>2</sup> )	一般局	%	70.0	100.0	100.0	◎	30.0ポイント上昇
		自排局	%	33.3	40.0	100.0	△	6.7ポイント上昇
	一酸化炭素 (自排局)		%	100.0	100.0	100.0	◎	—
	浮遊粒子状物質	一般局	%	100.0	67.0	100.0	○	33.0ポイント低下
		自排局	%	100.0	60.0	100.0	○	40.0ポイント低下
	光化学オキシダント (一般局)		%	0.0	0.0	100.0	×	—
降下ばいじん (一般局)		%	100.0	100.0	100.0	◎	—	
水質汚濁に係る市保全基準達成率 (BOD)			%	97.1	100.0	100.0	◎	2.9ポイント上昇
生活排水処理率(公共下水道, 合併処理浄化槽等)			%	99.6 (H17)	99.8	100.0	◎	0.2ポイント上昇
透水性舗装延長			km	10.1	12.6	10.0	◎	24.8% 増加
一般騒音に係る市保全基準達成率			%	61.1	75.0	100.0	○	13.9ポイント上昇
自動車騒音に係る市保全基準達成率			%	88.2	94.5	100.0	◎	6.3ポイント上昇

※1 「一般局」とは一般環境大気測定局を、「自排局」とは自動車排出ガス測定局を略したものです。  
 ※2 二酸化窒素については、「1時間値の1日平均値0.02ppm以下」の基準とあわせ、当分の間の基準として「1時間値の1日平均値0.04ppm以下」が設定されています。

## 市環境保全基準達成状況の推移

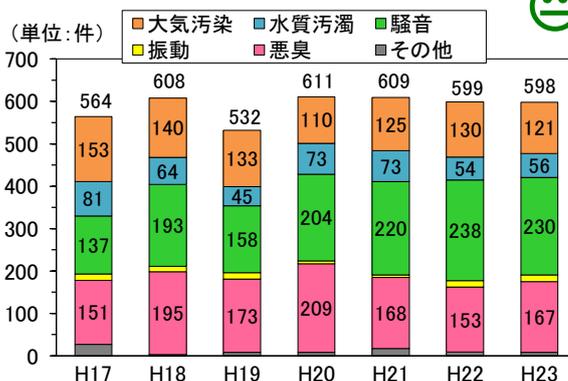
長期的には各分野とも概ね良化傾向で推移しています。



※各分野の測定物質全項目に対する、基準を達成した項目の比率を表しています。

## 公害苦情件数の推移

工場・事業場からの悪臭や工事・建設作業からの騒音に伴う公害苦情が多い状況です。



# Action (改善・見直し・更なる前進)

## 電気自動車の普及拡大を進める EV・PHV用充電インフラ整備

全行政区の公共施設 41 箇所に、電気自動車用の充電設備を合計 49 基 (平成 24 年度末現在) 設置しています。

環境にやさしい自動車の普及拡大を進めています。



**エコドライブを実践すると、  
 同じ車で同じ距離を走行しても、  
 1〜2割の燃費が改善できます！**



太陽光発電付の電気自動車用の充電設備

## Plan (計画・目標)

京都の歴史的風土である三方の山々や清らかな川の流れなど、市内の優れた自然環境を保全するとともに、市内に生息・生育する多様な野生動植物との共生を図ります。

また、世界遺産や文化財、史跡等の歴史的な文化環境、伝統的な京町家や町並みに代表される京都固有の趣のある市街地景観を保全するとともに、身近な緑や水辺環境の保全・創造に努め、うるおいと安らぎのある快適環境を確保します。

### 基本

#### 3-1 自然環境の保全

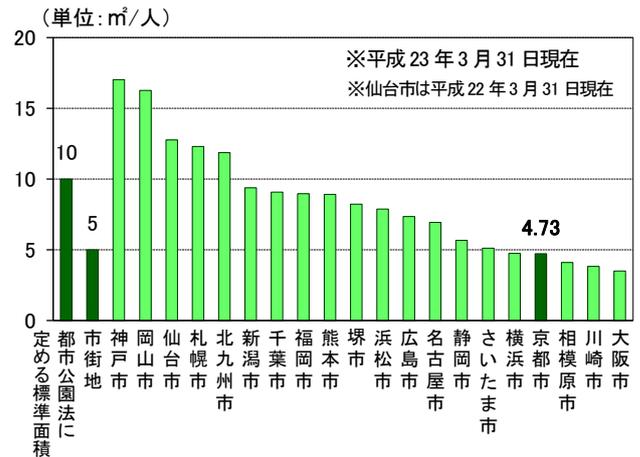
### 施策

#### 3-2 快適環境の確保

緑は多様な機能をもっていることから、今ある緑を保全し、公園等を整備し、また市民等との協働によって民有地の緑化を推進することが必要です。

#### 政令指定都市市民一人当たり公園面積

1人当たりの公園面積は4.73㎡であり、少しずつ増えていますが、目標(10㎡/人)達成に向けて更なる取組が必要です。



## Do (実施)

### 第1次 京のみどり推進プランを策定し、市街地の緑化を推進中

「京都市緑の基本計画」の実施計画である本プランに基づき、「緑視環境向上プロジェクト」など様々な緑化施策に取り組んでいます。

また、市街化区域内で、個人や事業者の方が公道に面した建築物(屋上・壁面)や敷地(駐車場を含む)を新たに緑化する際に、その費用の一部を助成しています。



### 市民との協働による身近な公園の整備

#### 新設・再整備した公園

- ◆ 北河原公園(南区)
- ◆ 千石荘公園(右京区, 右写真)
- ◆ 向代公園(伏見区)



### 市民公募型緑化推進事業

市民の皆様がまちなかで目にする緑を増やし、緑の豊かさを実感できるよう、市民の皆様のご意見を踏まえ、公共の敷地や建築物等を緑化する取組を実施しています。



島原通の緑化

### 街路樹に被われた道路の森づくり

都市緑化の推進を図り、街路樹に被われた「道路の森づくり」を目指し、低木植栽のみとなっている既存道路の中央分離帯に新たにケヤキを中心とした高木を植栽する取組を進めています。

- ◆ 御池通(写真)  
(天神川~西大路通)  
ケヤキ等 53本
- ◆ 烏丸通  
(丸太町通~御池通)  
ケヤキ等 約50本



# Check (点検) 主な環境指標の推移

環境指標	単位	基準値 (基準年度)	実績値 (実績年度)	目標値 (目標年度)	進捗度及び 対基準値比	
森林面積	ha	40,744 (H16)	61,025 (H22)	—	—	49.8%増加
森林保育・造林面積	ha	928 (H16)	925 (H22)	—	—	0.3%減少
耕地面積	ha	2,805 (H16)	3,224 (H22)	—	—	14.9%増加
自然体験学習の場利用者数	人	148,006 (H16)	145,161 (H23)	—	—	1.9%減少
1人当たり公園面積	m <sup>2</sup> /人	4.56 (H17)	4.73 (H23)	5.35 (H27) 10 (H37)	×	3.7%増加
保存樹・保存樹林数	件	40 (H17)	38 (H23)	—	—	5.0%減少

## Action (改善・見直し・更なる前進)

### 健全で多様な森林の保全を進める 森の力活性・利用対策

市域面積の約4分の3を占める豊かな森林が持つ二酸化炭素吸収機能を高めるとともに森林資源の有効利用を図るため、間伐を中心とした森林整備を進めています。



林内路網と高性能林業機械による間伐材の搬出

### 森林資源を有効に使い、エネルギーの自給自足を可能にする 木質ペレットの普及

再生可能エネルギーとしてストーブやボイラー等の燃料となる木質ペレットの利用を促進するため、原料となる間伐材の搬出支援、ペレットストーブ・ボイラーの導入補助、公共施設への率先導入等、様々な取組を行っています。



木質ペレット



ペレットストーブ

### 健全で恵み豊かな環境を保全するために 環境影響評価等に関する条例を改正

平成25年4月施行

環境影響評価法の改正を踏まえ、条例と法との整合を図るとともに、本市の健全で恵み豊かな環境を保全し、事業による環境への影響をできる限り少なくするために、条例を改正し、環境影響評価制度を強化しました。

#### 【主な改正内容】

- ◆ 計画段階環境配慮<sup>※</sup>の結果等を記載した配慮書案の提出の義務化
- ◆ 提出された文書のインターネットによる公表、事業者による説明会の開催等の義務化

※ 事業計画の立案の段階において、環境保全のために配慮すべき事項について検討すること

### 天然アユが生息できる豊かな環境を取り戻すことを目指して 京の川の恵みを活かす事業

「京の川の恵みを活かす会」では、平成23年度に魚道を設置した龍門堰(伏見区下鳥羽)に加え、四条大橋下流の堰堤において、竹等を用いて、魚類が遡上しやすく工夫した魚道を設置しました(写真)。

児童を対象に魚道見学会も開催し、5月から7月に約3万尾を超える天然アユが遡上しました。



## Plan (計画・目標)

京都の精神文化である、「始末」という考え方や、「もったいない」と思う心を大切に、今日の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済活動や生活様式を見直し、ごみの発生抑制や資源の循環的利用、廃棄物の適正処理等を推進することにより、限りある資源を将来の世代に残せるよう有効に利用し、環境への負荷が少なく持続的に発展することが可能なまちを目指します。

### 基本

4-1 一般廃棄物対策の推進

### 施策

4-2 産業廃棄物対策の推進

#### 【一般廃棄物対策の推進の目標値】

京都市循環型社会推進基本計画（2009-2020）に掲げる「平成 32 年度の一般廃棄物市受入量を平成 12 年度（ピーク時）から半分以下の 39 万トン」とする。

ピーク時：平成 12 年度 一般廃棄物市受入量 82 万トン

目標年度：平成 32 年度 一般廃棄物市受入量 39 万トン

## Do (実施)

### 「ものを大切にするライフスタイル」への転換を図るため、KYOTO エコマネーの運用

「ごみを減らす行動」をしていただくと、エコマネーを提供し、商品に交換できる仕組みを設けています。

マイボトルで飲み物を購入するとエコマネーがもらえる取組に加え、再使用できる衣料品を持ち込むとエコマネーがもらえる取組も実施しました。

平成 24 年度は延べ約 2 万人が参加



### 移動式資源回収モデル事業の実施

市民の皆様から「出し方に困る」との意見のある塗料・溶剤、薬品類などのごみと、従来から回収している資源物を、日ごとに場所を変えて回収するモデル事業を実施しています。



家庭ごみを減らすには、燃やすごみの約 4 割を占める生ごみの減量と、約 3 割を占める紙ごみの分別・リサイクルを進めることが重要です。

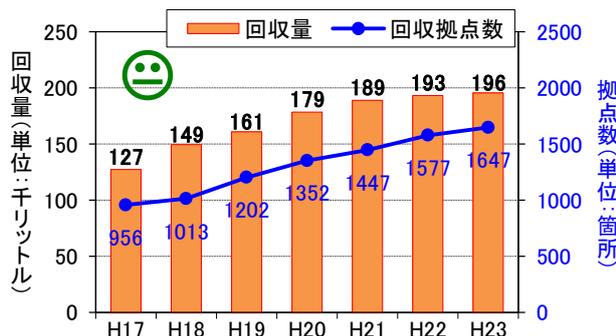
### 使用済てんぷら油の回収

家庭で使用されたてんぷら油を回収して、「環境にやさしい燃料」を精製し、ごみ収集車や一部の市バスの燃料として使用する、バイオディーゼル燃料(BDF)化事業を実施しています。

平成 23 年度は、約 20 万リットルを回収しました。今後も継続的に取り組みます。

※回収いただける団体等への助成制度があります。

(☞22 ページ)



### 紙ごみは、とにかく分別！古紙回収へ！

#### 紙ごみ編

新聞・チラシ 雑誌・書籍  
段ボール 紙パック  
雑がみ(包装紙、ビラ、紙箱等のリサイクルできる汚れていない紙)

これらはリサイクルできる紙です。きっちり分別して、古紙回収に出しましょう！



### 紙ごみって、どこに出すの？

- その1 自治会やマンションの集団回収(コミュニティ回収)に出す。
- その2 民間の回収業者に依頼して出す。
- その3 上京リサイクルステーション、まち美化事務所、クリーンセンターに持ち込んで出す。
- その4 区役所・支所のエコまちステーションで月1回程度実施する臨時回収に出す。

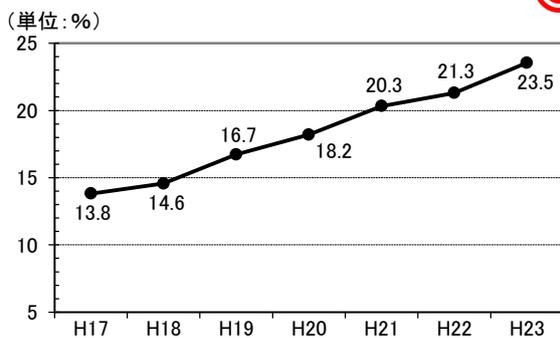
# Check (点検) 主な環境指標の推移

環境指標	単位	基準値 (H20)	実績値 (実績年度)	目標値 (H27)	進捗状況及び対基準値比	
一般廃棄物市受入量	トン	574,021	488,823 (H23)	470,000	◎ 14.8% 減少	
一般廃棄物再生利用率	%	18.2	23.5 (H23)	26	○ 5.3ポイント 増加	
一般廃棄物市最終処分量	トン	92,391	65,812 (H23)	39,000	○ 28.8% 減少	
使用済てんぷら油の 回収拠点数・回収量	回収拠点数	箇所	1,352	1,647 (H23)	—	— 21.8% 増加
	回収量	L	178,528	195,512 (H23)	—	— 9.5% 増加
産業廃棄物発生抑制率※	—	2,718トン	2,718トン(H20)	平成20年度 に比べ7%減	—	
産業廃棄物再生利用率※	%	43.7	43.7 (H20)	45	—	
産業廃棄物埋立処分量※	%	4.3	4.3 (H20)	2.8	—	

※産業廃棄物の実績は5年程度に1回把握しており、最新の実績は平成20年度になります。

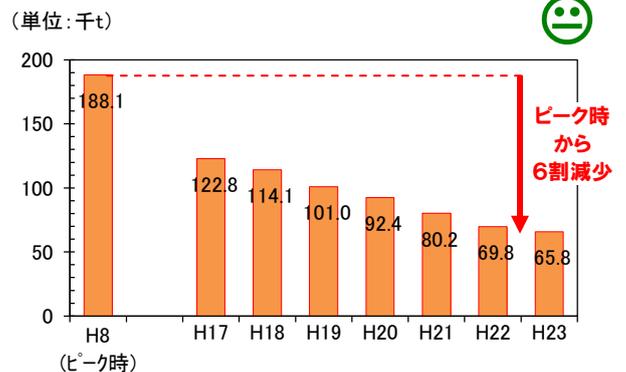
## 一般廃棄物再生利用率の推移

平成23年度は23.5%であり増加傾向



## 一般廃棄物最終処分量の推移

一般廃棄物総排出量の減少, リサイクルなどにより, ピーク時(平成8年度)から約6割減少



# Action (改善・見直し・更なる前進)

## クリーンセンターの4工場から3工場体制へ移行

市民や事業者の皆様のご協力によるごみ減量, 再資源化の進捗を踏まえ, ごみ処理コストの大幅な削減を図るため, 老朽化が進む東部クリーンセンターを平成24年度末に休止し, 3工場体制に移行しました。

⇒ クリーンセンターの建設費 400億円, 年間運営費 8億円 を削減

## 事業ごみ減量・リサイクルの推進

事業ごみの減量を進めるため, 事務所, 飲食店等の事業所に対し, ごみの減量や分別について啓発しています。

その一環として, 事業ごみの出し方や減量手法等を分かりやすく紹介するニュースレター「**ごみ減にけーしょん**」を2箇月ごとに発行しています。



## 「都市油田」発掘プロジェクト

### 生ごみと紙ごみからエタノール燃料を製造

日立造船(株)及び熊本大学と共同で進めてきた都市油田発掘プロジェクト(生ごみと紙ごみからバイオマスの回収とエタノール変換技術の開発)において, 実証プラント施設が完成(写真)し, 実証試験を行っています。

平成24年4月には生成した燃料を使用し, 二条城東大手門におけるLED灯籠の点灯実験を行いました。



# すべての主体の知恵と工夫と行動で環境を支える まち・京都

## Plan (計画・目標)

今日の環境問題の多くは、日常生活や通常の事業活動に伴って生じる環境への負荷が原因の一つとなっていることを認識し、そのあらゆる場面に環境配慮の考え方を織り込むとともに、地域社会を構成する市民、事業者、行政などのすべての主体が、それぞれの責務や役割のもと、知恵を出し合い工夫しながら連携し、自主的・積極的な行動で環境を支えるまちづくりを推進します。

### 基本施策

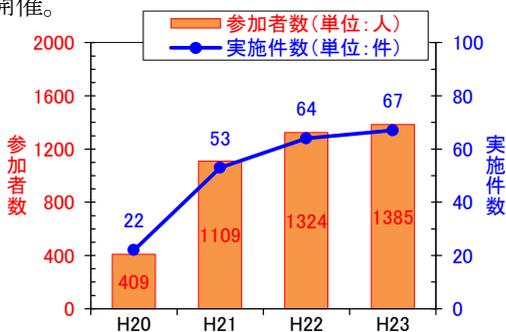
- 5-1 環境教育・学習の推進
- 5-2 環境保全活動の促進
- 5-3 広範な主体の参加と環境コミュニケーションの推進
- 5-4 環境関連産業の育成と技術開発の推進

## Do (実施)

### 環境施設見学会「ごみ減量エコバスツアー」

市民のさらなるごみ減量や分別・リサイクル意識の高揚を図るため、クリーンセンターや資源リサイクルセンターなど、ごみ処理・再資源化施設を見学するバスツアーを開催。

毎年、開催回数を増やしています。  
22 ページ



みやこ

### 京エコロジーセンターに行ってみよう！

京エコロジーセンター(写真)は平成9年12月に開催された地球温暖化防止京都会議(COP3)を記念して設立し、平成24年度で開館10周年を迎えました。環境学習と環境保全活動の拠点として活用されています。

平成23年度の利用者数は開館以来最高を記録しました。

### 見て、触れて、感じる「体験型展示」

地球規模の環境問題から、日常生活に関わるごみ減量や電気使用量削減の知恵まで、体験しながら学べる展示があります。



京エコロジーセンターのキャラクター「ちきゅまる」

### 子どもエコライフチャレンジ

#### 全市立小学校の高学年対象に実施

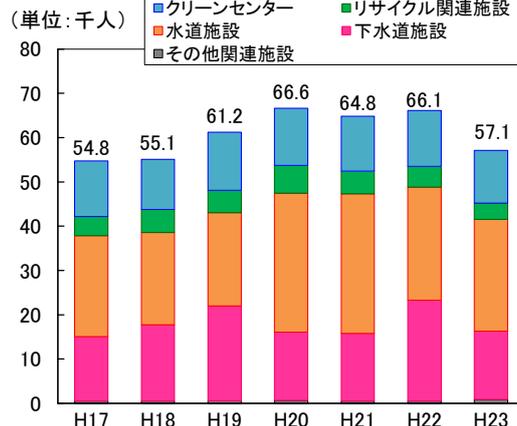
未来を担う子どもたちが、地球環境について学び、夏(冬)休み期間中に家族と相談しながら「子ども版環境家計簿」をつけることで、自分でできることに気づき、省エネルギーをはじめとする「環境に配慮した生活」(エコライフ)の定着を目指すものです。

夏(冬)休みの前後に学習会を行っています。



### 環境施設などの見学者数の推移

年間約6万人の市民が見学に訪れています。

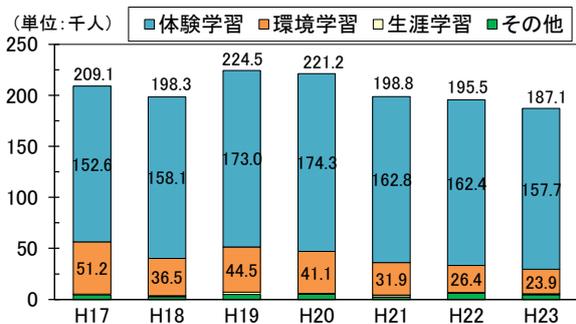


# Check (点検) 主な環境指標の推移

環境指標	単位	基準値 (基準年度)	実績値 (H23)	目標値 (H27)	進捗度及び 対基準値比	
環境保全活動プログラム参加者数	人	193,617(H16)	187,125	—	— 3.4% 減少	
人材育成数	人	96(H16)	187	—	— 94.8% 増加	
環境関連施設利用者数	人	75,815(H17)	87,434	—	— 15.3% 増加	
こどもエコクラブ参加団体・参加者数	参加団体数	団体	18(H16)	10	—	— 44.4% 減少
	参加者数	人	779(H16)	835	—	— 7.2% 増加
KES 認証取得(保有)件数	団体	389(H16)	1,437	—	— 269.4% 増加	
エコイベント登録数	件	15(H22)	84	100	◎ 460.0% 増加	

## 環境保全活動プログラム参加者数の推移

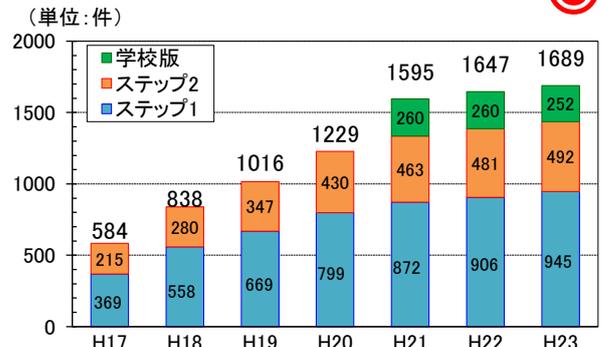
平成 23 年度の参加者数は 187,125 人で、前年度から約 8,400 人減少



京エコロジーセンター, 青少年科学センター, 青少年活動センター等が実施する環境学習・生涯学習に参加した人数を集計

## KES 認証取得(保有)件数の推移

平成 23 年度末までに 1,689 件認証しており、着実に増加



市内外の事業者, 学校版(小中学校等)に対する認証件数

KES (KES・環境マネジメントシステム・スタンダード) は、企業等の経営に当たって、省エネ・省資源、ごみ減量、温室効果ガスの削減等、環境への負荷を低減するための仕組みです。

# Action (改善・見直し・更なる前進)

## 京都の企業などが出前授業いただく環境学習事業

子どもたちが環境や科学に関する興味を深める機会として、環境保全、環境技術の向上に積極的に取り組む京都の企業が、小学校を訪問し、自社の技術等を紹介しながら環境学習を行っています。

京都商工会議所にご協力いただき、平成 24 年度は 25 社に出前授業していただきました。



太陽電池を用いて発電システムを体験

## リユース食器の利用等によるイベントのエコ化

華やかなイベント等の陰で、大量のごみが発生しているのをご存知ですか？

イベントから出るごみの大半を占める紙コップや紙皿などの使い捨て容器を削減するため、洗って繰り返し使うことのできる「リユース食器」(写真)の導入を進めています。

◆ 祇園祭, 京都特 B 級ご当地グルメフェスタ等でリユース食器「お試しキャラバン」を実施

◆ リユース食器利用助成を 23 イベント(平成 23 年度)で活用



# ご存知ですか 市の取組

## 家庭ごみ有料指定袋の収入は3つの分野に関する事業に役立てています

### ごみ減量・リサイクルの推進 (7億3,650万円)

( )内は平成24年度当初予算額

- リユース食器の利用などイベント等のエコ化の推進 (☞20ページ)
- コミュニティ回収を実施する団体に助成 (☞22ページ)
- マイボトル持参と衣料品回収行動を促進する KYOTO エコマネーの運用 (☞17ページ) など

### まちの美化の推進 (2,020万円)

- カラスや風によるごみの散乱を防ぐ防鳥用ネットの貸出し
- 不法投棄に困っている地域団体に対して監視カメラを貸与 など

美しい地球を次世代に引き継ぐため、これからも家庭ごみ有料指定袋の収入を有効活用していきます！

### 地球温暖化対策 (4億2,120万円)

- 低炭素のモデル地区「エコ学区」事業 (☞11ページ)
- 全市立小学校で「こどもエコライフチャレンジ推進事業」を実施 (☞19ページ)
- 太陽光発電システム, 太陽熱利用システム, 蓄電システムの設置費用を助成 (☞21ページ) など

## 太陽エネルギー利用設備設置助成制度

市民の太陽エネルギーの利用拡大を促進するため、住宅用の太陽光発電システム, 太陽熱利用システム, 蓄えた電気を夜間や非常時に活用する設備「蓄電システム」の設置費用の一部を助成しています。

### 平成24年度の助成額等

#### 助成対象者

個人(戸建住宅, 共同住宅)/管理組合(共同住宅)/自治会等(集会所)

太陽光発電システム	最大出力1kW当たり2万円 (上限4kW)
太陽熱利用システム	・ソーラーシステム1件当たり10万円 ・太陽熱温水器1件当たり5万円 ※ 集熱面積が3㎡以上の設備に限ります。
蓄電システム	設置費用の3分の1 (上限50万円)



景観配慮型太陽光発電システムの設置例

詳しくは、市民しんぶんやホームページでご確認ください。 **京都市太陽24 検索**

お問い合わせ先: 環境政策局 地球温暖化対策室 電話: 075-222-4555

## 環境教育に関する市発行物の紹介

～ 家庭や学校でできるかんたん環境学習 ～

学校関係者や環境の専門家との協働で、小学4年生用はごみ問題を中心とした内容, 5年生用は地球環境問題を京都の自然・環境・わたしたちのくらしの切り口から考える内容, 中学生用は地球規模で起こっている環境問題と私たちの生活について考える内容で環境教育の副読本を発行しています。

ホームページからご覧いただけます。  
<http://www.miyako-eco.jp/advice/>

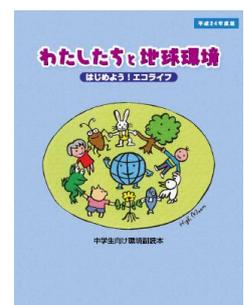
**エコネタ 京エコセン 検索**



小学4年生用



小学5年生用



中学生用

## 環境施設見学会 **ごみ減量エコバスツアーを開催しています**

市民のさらなるごみ減量や分別・リサイクル意識の高揚を図るため、クリーンセンターや資源リサイクルセンターなど、ごみ処理・再資源化施設を見学するエコバスツアーを開催しています。

### オーダーメイド型エコバスツアー

- ◆団体やグループ単位で、見学施設や日程等の御希望を相談したうえで、最適な見学コースを設定します。

### 一般公募型エコバスツアー

- ◆行政区単位で実施（当該区在住の方）



**お問い合わせは各区役所・支所内のエコまちステーションへ**

## 地域における総合的な環境行政の拠点窓口「**エコまちステーション**」

地域における自主的な清掃活動、使用済てんぷら油の回収やコミュニティ回収等のごみ減量・リサイクル活動への支援、ごみの分別に関する相談、地球温暖化対策の普及啓発等の拠点となる窓口を区役所・支所内に開設しています。

### こんな時は、「エコまちステーション」にご相談ください。

- ◆資源ごみの出し方、分別方法を知りたい。
- ◆てんぷら油回収、コミュニティ回収、生ごみ減量の助成制度を知りたい。
- ◆蛍光管、電池、古紙等の資源物の回収拠点を知りたい。
- ◆自治会で一斉清掃をするので清掃道具を貸してほしい。 など



相談を受ける様子

## 使用済てんぷら油回収助成

使用済てんぷら油の回収を行う団体等に対し、回収拠点の運営に必要な経費を助成しています。

### 平成 24 年度の助成額等

拠点数	助成額(4月申請の場合)
1 拠点	5,000 円
2 拠点目以降	1 拠点あたり 1,500 円(上限 15,000 円)

## コミュニティ回収制度

町内会やご近所のグループなどにより、古紙類、古着類、缶・びんなどの資源物を集団回収していただく取組に対し、活動経費を助成しています。

### 平成 24 年度の助成額等

回収品目	助成額 (4月申請の場合)	
古紙類、古着類、缶類、びん類、その他(ペットボトル等)	古紙類のみ	10,000 円
	古紙類以外の 2 品目	10,000 円
	古紙類に加え 1 品目以上	15,000 円
	古紙類以外の 3 品目以上	15,000 円

## 生ごみ・落ち葉の堆肥化等の費用助成

家庭から出る生ごみの減量を図るため、電動式生ごみ処理機、生ごみコンポスト容器の購入費用の一部を助成しています。

また、市民団体（概ね 10 世帯以上）が落ち葉等の堆肥化の活動を行う場合に費用を助成しています。

### 平成 24 年度の助成額等

種別	助成額	助成限度額	
電動式生ごみ処理機	過去に助成を受けていない方	購入価格の 2 分の 1	35,000 円
	5 年以上前に助成を受けた方	購入価格の 3 分の 1	25,000 円
生ごみコンポスト容器	過去に助成を受けていない方	購入価格の 2 分の 1	4,000 円
	5 年以上前に助成を受けた方	購入価格の 3 分の 1	3,000 円
堆肥化活動支援	新規団体	材料等実費	50,000 円
	既存団体	材料等実費	10,000 円

**これらは一例です。募集期間など詳しくは、市民しんぶんなどで随時、お知らせします。**



## 「DO YOU KYOTO?」とは

「DO YOU KYOTO?」という言葉をご存知ですか？

京都議定書にちなんで、京都から世界に向けて発信する「環境にいいことしていますか?」という意味の合言葉。

京都市では、京都議定書を発効した2005年2月16日にちなみ、毎月16日を「DO YOU KYOTO?デー」（環境に良いことをする日）としています。

## お問い合わせ先

内容	担当課		連絡先(電話)
地球温暖化対策に関すること	環境政策局	地球温暖化対策室	075-222-4555
低公害車やエコドライブの普及に関すること 身近な生き物の発見・報告について		環境管理課	075-213-0930
大気汚染、騒音・悪臭など公害に関すること		環境指導課 北部環境共生センター 南部環境共生センター	075-213-0928 075-451-0211 075-671-0511
ごみの減量・リサイクルに関すること		循環企画課 まち美化推進課 事業系廃棄物対策室	075-213-4930 075-213-4960 075-366-1394
地域産材、木質ペレットに関すること	産業観光局	林業振興課	075-222-3346
公共交通利用促進に関すること	都市計画局	歩くまち京都推進室	075-222-3483
緑の保全、まちなか緑化に関すること	建設局	緑政課	075-222-3589
環境学習と環境保全活動の拠点	京エコロジーセンター		075-641-0911

京都市 環境政策局 環境企画部 環境総務課

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地 西庁舎2階

TEL: 075-222-3450 FAX: 075-222-3426

E-mail: kankyosomu@city.kyoto.jp

環境レポートはホームページでもご覧いただけます。 [京都市 環境総務課](#) [検索](#)

平成 25 年 3 月 発行 京都市印刷物 第 × × × × × × × 号

※この冊子は再生紙を使用しています。